

# 令和5年度第1回美祢市総合計画審議会 議事録

日時 令和5年11月30日（木）13時30分から15時30分まで

場所 美祢市役所3階 301会議室

## 出席者

- ・出席委員14人 田中会長、小林副会長、磯部委員、兼清委員、青木委員、岡田委員、折田委員、加藤委員、高須委員、内藤委員、松原委員、本山委員、山田委員、山本委員
- ・欠席委員6人 竹岡副会長、井町委員、野原委員、竹尾委員、札幌委員、森脇委員
- ・事務局 佐々木部長ほか4人

## 議事内容（要点筆記）

### 1 開会

事務局により開会～資料確認

### 2 市長あいさつ

篠田市長挨拶

### 3 第二次美祢市総合計画の策定について（諮問）

篠田市長が田中会長に諮問

### 4 協議事項

#### (1) 第二次美祢市総合計画後期計画等の策定方針について

事務局より資料1について説明

- 会長 スケジュールにある意識調査、基礎的調査があるが、これらは進行中ということか。12月ごろ結論が出るということか。また前期計画の評価検証等も現在なされており、来年1月ごろには出てくるということか。この場ではまとまったものはないということか。
- 事務局 おっしゃる通り。今年度もう1度審議会を開催することを想定しており、そこでお示しさせていただく。
- 会長 意識調査や前期計画の評価検証の結果は後期計画に盛り込まれるという認識でよいか。
- 事務局 全てを、というのは難しいが、それらを踏まえて後期計画の策定を行う前提である。
- 会長 基本計画と総合戦略は被っている部分が一部あるという認識でよいか。
- 事務局 基本計画は、市の施策全体を網羅するように作られている。一方でまち・ひと・しごと創生法の法定計画として総合戦略が位置づけられ、基本計画のうち人口減少や地方創生に関するものを戦略的に整理して計画したものが総合戦略。美祢市の課題として、より総合戦略に力を入れていく形にしていきたい。基本計画は大きな方針を示すものとして整理して、あと分野の課題は個別計画でカバーしていきたい。
- 副会長 調査項目は、経年を見た調査項目なのか、どういうものか説明いただきたい。
- 事務局 前回と同じ質問して経年変化を見る質問と、前期計画の施策の満足度や重要度を確認する項目がある。アンケートの集計が終わり、現在報告書作成中。
- 会長 基礎的調査の整理・分析とは何をしているのか。

○事務局 総合計画の冒頭にあるような人口等の分析、データの整理をしている。  
～策定方針承認～

## (2) 第二次美祢市総合計画基本計画の進捗管理について

### (3) 第2期美祢市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗管理について

### (4) 令和4年度デジタル田園都市国家構想交付金活用事業の実績について

事務局より資料2から6について説明

○委員 資料4について、現状値として平成30年がベースとなっているがなぜか。

○事務局 前期基本計画の策定が令和元年度末で、策定時に最新でつかんでいた情報が平成30年のため。

○委員 目標値は入っていないのか。

○事務局 資料4に令和6年の目標値がある(資料4の記載内容を、観光交流人口を例に説明)。

○委員 本来なら右肩上がりで行進していくのが理想だったということか。

○事務局 その通り。しかし、観光などはコロナで一度大きく下がって、目標を未達成のものもあるということ。

○会長 計画を立ててすぐにコロナになってしまった。コロナの影響で技術継承ができていない。このギャップはすごく大きい。2～3年コロナで大変な時期があった。人の観光に対する考え方など大きく変わった。平成30年に立てた方法論がそのまま使えるのか。新しい作戦を練る必要があるのではないか。

○事務局 おっしゃる通りで、回復することを目標とするもの、手法を変える・見直すもの、辞めるものなどあると思う。プラスに考えれば、それを整理する良い機会だと思う。

○会長 ぜひそれを整理していただき、それを伝えられる資料があるといい。コロナから立ち直るための戦略などを考えて欲しい。

○委員 今年の夏休みに華道など子どもたちに色々なことを体験させた。部活動を地域に移行するというものの延長戦。スポーツは力を入れるが、文化活動に対しては今まで経験がないから要望もない。人の心を育成するには文化活動が非常に重要だと思う。この夏休みの事業が一過性のものでなく続けて欲しい。

○事務局 文化活動に触れる機会を協会に協力いただいた。いろんな形で機会の創出を検討していくこととしている。

○会長 学校ごとではなく、美祢市全体で実施してほしい。そうすれば教えられる人もいると思う。少子化というのは色々なところに影響を与えているので、子ども目線で考えて欲しい。

○事務局 生涯学習スポーツ推進課の中で文化とスポーツを合わせて取組を実施している。今は地域移行にむけた土台づくり中。来年度についても、希望を取って進めることを想定しており、引き続き皆さんの協力を賜りたい。

○委員 資料の見方について、総合戦略の指標はどこを見るべきか。

○事務局 資料の5が総合戦略の指標を積み上げたものになっている。資料の4が基本計画の指標を積み上げたものになっている。

○委員 住み慣れた地域で自立した生活を、そして質の高い、介護サービスの提供体制ということだが、介護事業者としても経営が厳しい状況にある。市内での介護事業者の撤退も見

受けられる。高齢者のためということ、大変重要な事業になっているので、在宅で生活ができるようにということであれば、重点を置いた施策を今後もお願いしたい。また、誰もが快適に暮らせるまちづくりで、空き家対策としてはリフォームしたり、移住をされたり進んでおり、移住者が集まって活発に活動していることは良いこと。ただ一方で、廃墟が多くあり、危ない箇所がある。所有者と連絡が取れないなど問題がある。荒れた住宅地についても積極的な支援を要望する。

- 事務局 本市にとって重要な課題。日常生活を維持するために、医療や介護は必要なサービスであるという認識は重々理解している。いただいた意見を担当課に引き継いで議論していく。空き家については活用できるものはそうだが、廃屋や荒廃地など、今後この課題が顕在化していく。民地なので対応が難しい部分もあるが、担当部局と共有して検討をするよう伝える。
- 委員 農地についても、貸していた土地が作れないから戻す。戻す際には現状復帰と条件があるのに、荒れて返ってくることもある。農業も廃れないように、農業法人も次の世代がないとの声がある。市と農業委員会で話を進めていただきたい。
- 会長 「安全・安心な「まちづくり」」について、安全と安心は別問題であると考えている。安全であることを技術的に示すことが安全で、それを受けた市民が安心するかどうか。その考え方を整理してほしい。分けて考えた方が良いと思う。
- 副会長 保健・医療サービスの充実に関して、健康づくりセミナーの参加は非常に重要だと思うが、健康づくりセミナーに年齢制限があった。74歳未満となっており、参加できなかった。なぜ74歳で制限しているのか。
- 事務局 なぜ年齢制限があったのか存じ上げないので、内容を確認する。
- 会長 デジタル田園都市国家構想の交付金の検証結果について、健康診断受診率が低い。もっと高くなるよう気に留めていただきたい。
- 事務局 特定検診について、市も関心があり、取組を考えている最中。
- 委員 デジタル推進という言葉が出てきたが、市報が余分に回ってくる。スマートな配布を心掛けてほしい。
- 事務局 必要部数は担当課で把握し、地区と確認して部数を決めている。相談いただければ調整はできる。

## (5) 過疎地域持続的発展計画の取組状況について

事務局より資料7について説明

- 会長 人口に関する目標について、令和4年度に既に下回っている。これは目標の見込みが甘かったのか。予想しなかったことがあったのか。
- 事務局 過疎計画上の人口目標については、人口ビジョンを数値の参考にしている。人口ビジョンで想定していたものを上回る人口減少が進んでいる。

## (6) 令和5年度美祢市の人口状況について

事務局より資料8について説明

- 会長 人口に関するデータが並んでいるが、これがリアル。1番ショックだったのが、昨年生まれた子が62人しかいないということ。こういった事実、人口減少を前提に、みんなが幸せに暮らせるまちづくりは何か、この5年間で準備するなり、もう進めていかないと間に合わなくなる。

- 委員 これは全国的な問題で、人口減少の前提でどのようなまちづくりをするべきか。外国の方は美祢市に結構来ている。今あるものでどうしようかと考えるべきだと思っている。
- 会長 海外からの美祢市の移住はどのくらいいるのか。
- 事務局 外国籍の方が令和4年度末で259名。市民全体のおよそ1%。平成27年度末から100名弱増えている。
- 副会長 日本だけでなく外国の方を呼べるような施策というものの必要なのではないか。地区にいる技能実習生が地域の祭りにも参加してくれて、雰囲気が変わった。
- 会長 今年生まれた子供が60人であれば、現実的に考えるのであれば2クラス程度。寮を作るか、スクールバスを増やすか何かをやらないと。逆に60人に手厚く支援をすれば、数が少ない分やり方はある。子どもに優しいまちというものの一つの特徴。北九州市が高齢者に優しいまちだとしているように。世の中の流れから人口増加は難しいと思う。市民がみんな幸せな気持ちが持てるかどうか、そうすれば人は自然と集まってくるのでは。
- 委員 地元の小学校も、来年は18名入ってくるが、それ以降は1桁台の予測。昔と流れが異なっている。人数が少なくなれば、教育の質を上げられるというのは考えられる。美祢市に勤めにきているが住んでいない人なども課題と考えられる。それにメスを入れていくというのが何か案になるのでは。
- 委員 若い人が住まないという問題に、使っていない農地に家を建てる際に農業委員会の制限があるという話もある。定住促進をするなら、そこも前向きに検討してほしい。
- 会長 これからいろいろ総合計画の議論が始まるが、こういったことを前提に頭に置きながら、あるべき美祢市の姿、みんなが幸せになれるような美祢市を作っていくなくては。
- 事務局 今の美祢市の現状について、昨年度からGO-ENプロジェクトを萩市、長門市、美祢市で実施している。今年2組が成婚された。昨年度空き家実態調査実施した。平成29年度では1,337戸であった空き家が1,671戸に増えており、そのうち6.3%は利活用できない建物。利活用可能な空き家には、空き家バンクの登録、リフォーム等で利活用して住んでもらうようにしている。美東地域で小中一貫校の設置が検討されている。
- 副会長 小中一貫校は3年前から検討。それは子どもが少ないからではなく、美東町として1つの学校とすることを目指している。

## (7) 第二次美祢市総合計画後期計画策定スケジュールについて

事務局より資料9について説明

次回の会議を令和6年2月22日(木)13時半～(予定)

- 委員 総合計画審議会は、令和6年度に5回予定されているがその認識でいいか。
- 事務局 おっしゃる通り。令和6年度の会議は流動的などころもあるが4回～5回程度、会議数を予定している。

## (8) その他

- 副会長 過疎債のこれからの活用で、図書館のハード面の整備が進んでいるが、専門職の配置をご検討いただけると嬉しい。

## 5 閉会